Kobe University Repository : Kernel

PDF issue: 2024-09-27

仲介業を通じた都市労働市場再編に関する地理学的研究――1970 年代以降の地方都市におけるブラジル人労働者の移動と定着の過程を中心に――

小谷，真千代

(Degree)
博士（文学）
(Date of Degree)
2021-09-25
(Date of Publication)
2025-09-25
(Resource Type)
doctoral thesis
(Report Number)
甲第8119号
(URL)
https://hdl.handle.net/20.500.14094/D1008119

※ 当コンテンツは神戸大学の学術成果です。無断複製・不正使用等を禁じます。著作権法で認められている範囲内で、適切にご利用ください。

論　文　内　容　の　要　旨

論 文 題 目

仲介業を通じた都市労働市場再編に関する地理学的研究

—1970 年代以降の地方都市におけるブラジル人労働者の移動と定着の過程を中心に—

氏　　名　：小谷　真千代

神戸大学大学院人文学研究科博士課程後期課程社会動態専攻

指導教員氏名　（主）原口剛　准教授
（副）藤田裕嗣　教授
（副）樋口大祐　教授

本研究では、1970 年代以降の地方都市におけるブラジル人労働者の移動と定着の過程を中心に、仲介業を通じた都市労働市場の再編過程を検討してきた。

第 1 章では、D.ハーヴェイの都市空間の生産の議論を手がかりとして、近代以降の日本における労働市場の再編が、都市空間の生産と労働力移動の管理を伴うものであることを示した。まず、近代における工業化／都市化によって、湾岸部大都市に大規模な労働力需要が生じ、「斡旋人」、「手配師」などと呼ばれた仲介業者を通じて農村から大量の労働力を吸収したことを示した。つぎに、戦後恐慌における失業者救済という文脈のもと、国家が土木事業とともに、職業紹介や移民政策など労働力移動の管理に乗り出し、総力戦下において重工業化、都市開発、労働力移動の管理を強めていったことを指摘した。つぎに、戦後重工業への集中的な資本投下を通じて大都市のインフラを整備するとともに、営利目的の仲介業を規制しつつ、広域紹介、集団赴任など農村からの大規模な労働力移動を促進する制度を整えていく過程を整理した。そのうえで、1970 年代以降は、大都市への労働力供給地でありながら労働力需要地でもあるという矛盾した都市空間——「地方都市」を生み出しつつ、海外からの労働力流入と営利目的の仲介業規制緩和を通じて労働力移動を促したことを示した。その結果、国家による工業化の推進とインフラ整備には、つねに労働力移動の管理が伴っており、局地的な資本投下による不均等な都市空間の生産が労働力移動を生みだし、またその労働力移動こそがさらなる都市空間の拡大を促進することが明らかになった。

第 2 章では、1970 年代半ばを境に資本や労働力が流出していった湾岸部の大都市に注目し、D ミッチェルの「労働の景観」論を手がかりとして、神戸港の労働市場と都市空間の再編過程を検討した。まず、神戸が開港以降急速に工業化／都市化されていくなかで、仲介業者を通じて農村から労働力を吸収しつつ、港湾運送や土木建築、そして工場生産の下層部へと配置される過程を示した。つぎに、東川崎町が貿易や造船の中心地として多くの新規参入者たちを引きつけ、労働市場の上層部から下層部までさまざまな労働者たちが労働の景観を形作ったことを示した。それは単に労働／生活の拠点であるだけではなく、労働者達がうめこまれた下請構造や仲介業を介した雇用の矛盾や緊張、そして対立が表出する場だったと言えるだろう。そのうえで、1980 年代以降のウォーターフロント再開発をとりあげ、産業の衰退とともに物理的景観が破壊されショッピングモールへと再編されることで、「新しく生まれ変わる港」や「8 時間労働を導入した川崎造船所の偉大さ」という表象が生み出され、神戸港湾の景観がはらむ資本と労働という社会関係、それをめぐるコンフリクトの歴史が打ち消されていく過程を明らかにした。

ある場所の衰退が別の場所での発展と連動しているという地理的不均等発展の議論をふまえるのならば、神戸港において消失していくように見えた労働の景観と社会関係は、どこかに蒸発したわけでは

なく、別の場所で生産され続けていると考えられるだろう。そこで第 3 章、第 4 章では、1970 年代以降急速に資本と労働が流入した内陸部農村に焦点を移し、岐阜県美濃加茂市を事例として、都市労働市場の形成過程を検討した。

第 3 章では、1970 年代半ば以降に台頭した業務請負業者に着目し、彼らがいかにして地方都市の労働市場における労働力供給のインフラを整備していったのかを検討した。まず、美濃加茂市が近隣大都市からの下請工場進出を通じて工業化／都市化されるなかで労働力の供給地かつ需要地と化し、業務請負業者を通じて遠隔地から労働力を吸収する過程を示した。つぎに、業務請負業を営む人びとの聞き取り調査から、労働者として流入した人びとが業務請負業者の社員となり、独立することで、美濃加茂市周辺に小規模な業務請負業者が集積していく過程を示した。また、業者への聞き取り調査からは、業務請負業者による労働力供給が、単に労働者と企業を結びつけるだけではなく、住居と交通手段という物理的／社会的なインフラの整備を通じて実現されることを示した。さらに、住居と送迎というインフラの維持は、単に建物や車両を物理的に維持という以上に、どこからどこへ労働力を供給するのか――つまり、労働力供給のスケールの生産において決定的な意味を持つことを明らかにした。以上のことから、業務請負業者は、すでに国土開発や工場進出によって完成された周辺的な都市空間――「地方都市」へと日系人を送り込んだというよりも、むしろ、業務請負業者が日系ブラジル人を呼び寄せ、彼らの生活と労働のためのインフラを整備することを通じて、フレキシブルな労働力の供給にふさわしい都市空間を生産していたと言える。

第 4 章では、業務請負業者の営業および求人活動を知識の生産過程として捉え、業務請負業者がいかなる戦略のもとブラジル人労働市場を拡大するのかを検討した。まず、業務請負業者の日々の事業展開を通じて、仲介業者が労働者や企業からの問い合わせを待つ受動的な存在ではなく、みずから積極的に労働市場を切り開く存在であることを示した。つぎに、2008 年のリーマン・ショック以降拡大した娯楽遊戯機器と介護業をとりあげ、業務請負業者がより不安定な部門へと市場を拡大する過程を論じている。そのなかで、業務請負業者は権利主張を控え、不満を見せず、諍いを起こさず、常に笑顔でやさしく一生懸命に働く「よい」移民労働者のイメージをもとに、「トラブルを起こすブラジル人」、「まじめでよく働くブラジル人」という言説を生み出しながら、市場拡大のチャンスを切り開いていることが明らかになった。さらに、こうした言説は、下請構造の下層部のみが集められた地方都市の零細企業・零細業務請負業者・請負労働者の三者関関係のもとに生み出されたものであり、「よい」労働者のイメージの流通は、こうした社会関係を再生産する役割をも果たしうることを指摘している。

第 5 章では、さらにブラジルから上記のような地方都市へと労働者を斡旋する仲介業者に焦点をあて、ブラジルにおける労働者斡旋のネットワークの社会・空間的拡大過程を検討した。まず、デカセギ斡旋

によって日系の旅行社が活発化するなかで、電話帳掲載の旅行社立地はサンパウロ中心部へと集中しつつも、サンパウロ市内、サンパウロ州内、そして全国へと拡大したことを示した。つぎに、サンパウロ市リベルダージ地区で旅行社を営む人びとの参入経緯から、旅行者の増加にデカセギ斡旋業の集中と分散という二重の空間的過程が伴っていたことを示した。リベルダージには日系人人口や商店の集中など初期の斡旋業が事業を展開しやすい条件が整っており、さらに既存の写真館などが旅行社向けサービスを提供しはじめたことで、旅行社が集積したと思われる。一方で、それは労働者の奪い合いという事態を生じさせ、プロモーターを通じたネットワークの地理的拡大を促したと考えられよう。さらに、サンパウロの別地区やサンパウロ州内外の旅行社の事業展開からは、旅行社がどこに立地していようとも他社との競争関係におかれていると同時に、このネットワークは地理的に不均等なかたちで広がっていることを指摘している。そのうえで、各社が自らの斡旋ネットワークから別の場所にある旅行社・プロモーターを切り離すことで新たな事業のスケールを生み出し、不況を切り抜けてきたことを論じた。本章の検討を通じて、デカセギ斡旋ネットワークの地理的不均等が、旅行社による新たな斡旋スケールの生産の原動力であると同時に結果でもあり、この絶えざるスケールの生産こそが、デカセギ斡旋ネットワークを維持していることが明らかになった。

以上の事例をふまえるのであれば、まず、都市労働市場の形成には、つねに生産工程の末端部を特定の空間へと集めようとする過程が伴っていると言えよう。近代以降、急速に工業化した湾岸部大都市は、周辺の農村や植民地から労働者を吸収しつつ、生産工程の末端部へと配置していった。一方で、下請工場進出を通じた内陸部農村の都市化もまた、生産工程の末端部が農村という特定の空間へと集められる過程として捉えられうる。ただし、そこに生み出されたのは、かつての大都市とも農村とも異なる、労働力供給地でありながら需要地でもあるという矛盾した都市空間――「地方都市」であった。

急速に工業化された地方都市において、労働市場の仲介業は、ただ労働者と雇用者を結びつけるだけではなく、自ら市場を開拓しつつ、都市の物的・社会的インフラを整備する役割を担っていたと言えよう。そして彼らは、自らが生み出したインフラの整備と維持を通じて、自身の労働力供給のスケールを拡大していたのである。こうした地方都市の仲介業者のうごきはまた、労働力供給地で活動する仲介業者らの斡旋ネットワークの収縮とも連動していく。このことをふまえるのであれば、通常ブラジルと日本、あるいはグローバルなスケールから捉えられる日系ブラジル人労働者らの移動と定着は、各地の仲介業者が生産する無数のスケールから成り立っていると言えるだろう。つまり、現代の地方都市に立ちあらわれる日系ブラジル人の労働市場は、国家による開発や移民・労働政策によってグローバルに展開しているというだけではなく、労働力の供給地や需要地における仲介業者による絶えざるスケールの生産を通じて、マルチスケールに展開するのである。以上、神戸、美濃加茂、サンパウロの事例の検討を

通じて、本研究は仲介業者を通じたマルチスケールな都市労働市場の再編過程を実証することができた。

[課程博士用]

(別紙１)

論文審査の結果の要旨

氏　　名	小谷　真千代
論文題目	仲介業を通じた都市労働市場再編に関する地理学的研究 ――1970年代以降の地方都市におけるブラジル人労働者の移動と定着の過程を中心に――

要　　旨

近年の人文地理学においては、新自由主義的な都市再編のもと貧富の格差や対立が顕在化するなかで、労働をめぐる問題が焦点化され、「労働の地理学」という研究領域が世界的な関心を集めている。本論文は、このような世界的潮流を念頭に置きつつ、とりわけ労働力の仲介業を中心的主題とすることで、1970年代以降の地方都市におけるブラジル人労働者の移動と定着の背景に存する都市労働市場の動態を明らかにするものである。具体的には、本論文は岐阜県美濃加茂市、兵庫県神戸市、ブラジルのサンパウロ市という三つの地域を対象とし、インタビュー調査などの質的調査の手法を用いて、ローカルかつグローバルな視点から上記の課題を明らかにすることを目指している。

第１章では、D・ハーヴェイによる都市空間の生産論を手がかりとしつつ、先行研究を丹念に読解することにより、近代日本における労働市場の形成・再編過程の概要が提示される。工業化／都市化の端緒の時期には「斡旋人」「手配師」などの仲介業者が労働市場形成において中心的役割を担い、また、第一次世界大戦後の恐慌から第二次世界大戦にいたる時期においては、重工業化に必要とされる労働力供給を実現すべく国家が介入することで、広域職業紹介のシステムが構築された。そのような過程を経て戦後期には、農村から大規模な労働力移動を促進する制度が形成され、とくに1970年代以降は「地方都市」という独自の空間が生み出された。その空間は、大都市への労働力供給地でありながら労働力需要地でもあるような、矛盾した空間性を特徴とするものだった。

第２章では、1970年代半ば以降の神戸港を対象とし、D・ミッチェルの「労働の景観」論を手がかりとして、労働市場と都市空間の再編過程を論じている。本章ではまず、近代期に急速に工業化した神戸港において、仲介業者の手を経て労働者層が大規模に流入し、諸産業の下層部へと配置される過程が示される。つぎに東川崎町へと焦点をあわせ、当地においてさまざまな労働者たちが形成した「労働の景観」を詳細に明らかにするとともに、戦前の東川崎町とは資本と労働との対立が表出する場所であったと指摘される。以上の論点を踏まえ本章では、1980年代以降のウォーターフロント再開発によって、港湾の景観に孕まれるコンフリクトの歴史は打ち消されたことを明らかにしている。

第３章では、1970年代半ば以降に台頭した業務請負業者に着目し、彼らが地方都市の労働市場においてブラジルからの労働力供給を実現させる過程を検証している。まず、近隣大都市からの下請工場進出を通じて工業化／都市化された美濃加茂市は、労働力の供給地かつ需要地と化し、業務請負業者を通じて遠隔地から労働力を吸収したことが示される。つぎに、業務請負業を営む人びとへのインタビュー調査により、労働者として流入した人びとがやがて業務請負業者の担い手となる過程を経て、美濃加茂市周辺には業務請負業者が集積されたと論じられる。また、業務請負業者による労働力供給とは、ブラジルからの労働力の送出だけにとどまらず、住居や交通手段などの物理的／社会的なインフラの整備を伴うものであり、これらのインフラの維持は労働力供給のスケールの生産において決定的な意味を持つと主張している。このように業務請負業者が日系ブラジル人の生活と労働のためのインフラを整備することを通じて、フレキシブルな労働力の供給にふさわしい「地方都市」という空間が形成されたのである。

第４章では、第３章の知見を踏まえたうえで、業務請負業者の営業や求人活動を「知識の生産」過程として捉え、彼らがいかなる戦略のもとブラジル人労働市場を拡大しているのかを明らかにする。本章ではまず、業務請負業者の日々の事業展開の分析を通じて、彼らはただ労働者や企業からの働きかけを待つ受動的な存在ではなく、みずから積

主査記載 氏　名	藤田　裕嗣

極的に労働市場を切り開く存在であることが示される。つぎに、2008 年のリーマン・ショック以降拡大した娯楽遊戯機器と介護業をとりあげつつ、業務請負業者がより不安定な部門へと市場を拡大する過程を明らかにしている。このなかで業務請負業者は、諍いを起こさず一生懸命に働く労働者を「よい」移民労働者とする典型イメージを結実させ、そのイメージのもとに「トラブルを起こすブラジル人」と「まじめでよく働くブラジル人」という相反する言説を同時に生み出しながら、市場を拡大させているとの結論を導き出している。さらに、こうした言説は、下請構造の末端部における零細企業・業務請負業者・請負労働者の相互関係に規定されたものであり、「よい」労働者のイメージの生産と流通は、こうした社会関係を再生産する役割をも果たしていることが指摘される。

これらの論述を踏まえ、第 5 章では、労働力の供給地であるブラジルへと議論を移し、労働者斡旋のネットワークが社会・空間的に拡大される過程と論理が明らかにされる。まず、デカセギ斡旋によって日系の旅行社が活発化するなかで、その立地はサンパウロ市中心部に集中しつつも、サンパウロ市内から同州内、さらに全国へと拡大したことが示される。つぎに、サンパウロ市リベルダージ地区で旅行社を営む人びとの参入経緯を検証することにより、旅行社の増加にはデカセギ斡旋業の集中と分散という二重の空間的過程が伴っていたことが示されている。さらに、サンパウロの別地区や同州内外の旅行社の事業展開の検証からは、どこに立地していようとも旅行者は他社との競争関係におかれていると同時に、このネットワークは地理的に不均等なかたちで広がっていることを明らかにしている。以上の知見を踏まえ、自らの斡旋ネットワークから別の場所の旅行社やプロモーターを切り離し、新たな事業のスケールを生み出すことは、不況を切り抜けるために旅行社が採る主要な空間戦略であると述べられる。そうして本章は、デカセギ斡旋ネットワークの地理的不均等とは、旅行社による新たな斡旋スケールの生産の原動力であると同時に結果でもあり、また、この絶えざるスケールの生産がデカセギ斡旋ネットワークの基盤であると結論している。

以上の各章から得られた知見を踏まえ、終章においては、日系ブラジル人労働者の国境を超えた移動と定着の背景に見出される地理学的論理について、総括的視点が提示されている。すなわち、1970 年代以降の都市労働市場の再編過程は、かつての大都市や農村とは異なるような「地方都市」を生み出したのであり、それは労働力供給地でありながら需要地でもあるという矛盾した性質を特徴としている。また本論文は、この「地方都市」の形成過程において仲介業者が際立った役割を担っていることをも明らかにした。仲介業者とは、単に労働力を移動させるだけの存在でなく、本論文が示したように、生活と労働のインフラそのものを構築・形成することで、労働力供給のスケールを重層的に生産する能動的主体なのである。

本論文は、「労働の地理学」をめぐる最先端の理論的仮説を、国内外の地域を事例とした堅実な現地調査によって検証し、きわめてオリジナリティの高い知見を導き出した研究成果として、高く評価される。以上の審査結果により、審査委員会は論文提出者小谷真千代氏が博士（文学）の学位を授与されるに値するとの結論に達した。

審査委員

区　分	職　名	氏　　名	区　分	職　名	氏　　名
主　査	教授	藤田　裕嗣	副　査	准教授	菊地　真
副　査	教授	樋口　大祐	副　査	奈良女子大学 教授	吉田　容子
副　査	准教授	原口　剛			